

創業 130 周年を迎えて：

平素より、私ども多賀製作所をお引き立ていただき、誠に有難う御座います。

お蔭様で、我が多賀製作所は今年 3 月に創業 133 年目を迎えることが出来ました。

一重に、お客様の長年のご愛顧の賜物と深く感謝を申し上げますと共に、お取引先様のご協力に
対しまして御礼を申し上げます。

また、多賀製作所の社員のご家族の皆様始め、OB の方々並びに関係者の皆様に、
ご支援を賜りましたことを、心より御礼を申し上げます。

ここで、多賀製作所の 132 年の歴史について、ご紹介させていただきます。

*** 創業期：**1887 年 3 月（明治 20 年） 多賀一製作所は創業開始されました。

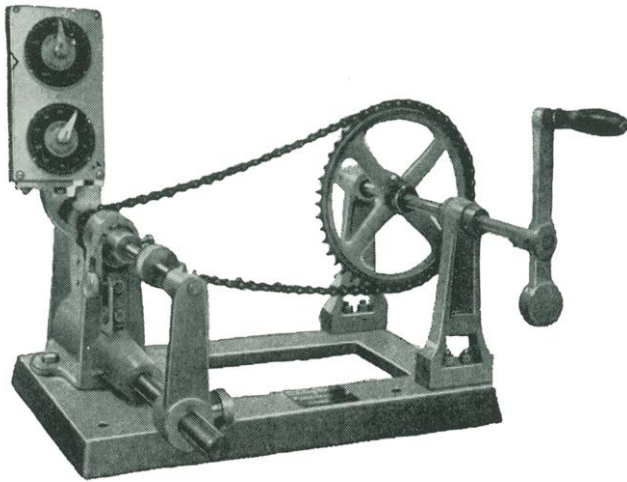
当時は、創業当時の看板に記載されております通り、糸巻線機械専門の機械メーカーとして
スタートしました。糸巻とは、まゆ玉より細い糸を引き出して、ポビンに巻き取る作業です。

その巻き取られた糸がシルクの衣類の原料となります。



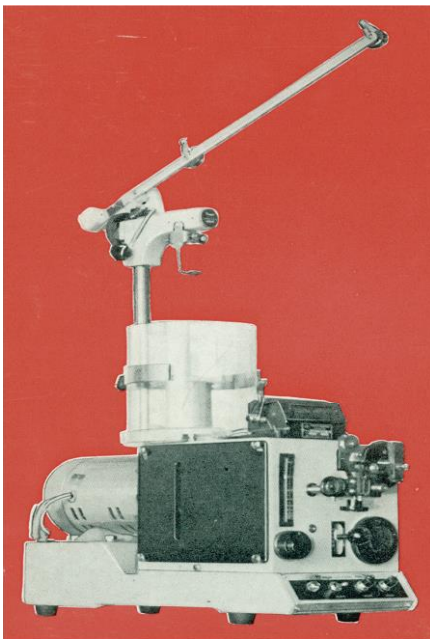
***巻線機製造開始**：1944年会社設立、1948年（昭和23年）Model: 17 & 17A

糸巻機を巻線機として使用開始した



***自動機開発**：1969年8月（昭和44年）350シリーズ

日本最初に巻線機にモーターを搭載した自動巻線機の製造販売を開始



*** NC制御巻線機開発：1979年（昭和54年）**

日本で最初に開発したCNC制御方式の巻線機 Model:80CNC

自動カラゲや分割巻線の自動化が可能になり、コイル製造の自動化が可能となる



***小田原エンジニアリンググループ：2017年1月に小田原エンジニアリングの100%子会社化、**

小田原エンジニアリングの企業目標の「世界の一の巻線機メーカーを目指す」方針を基に、

貢献することにより、共に発展することを目指します。

***この 130 周年を節目に、多賀製作所は、「第二の創業」と位置づけ、新たなスタートを**

切ることを決意しました。

自動車、自動車部品メーカー各社が「車の電動化」による巻線機市場の拡大に向けた新規開

発要素の高い製品が開発されているため、巻線機市場は、自動車の「CASE」(*)を

始めとした「百年に一度の大変革期」を迎え、電気自動車、ハイブリッドカーの量産や、

自動運転に向けたモーター化等、世界的に急拡大しつつあります。

弊社は、このような大変革にお応えするため、お客様の新規製品開発時点より、製品の量産時の自動化の実現性に向けた試作を行い、試作段階で製品設計の妥当性の確認と品質向上のために、ご提案を行います。更に、製品として品質評価を得た上で、設備仕様を確定し、機械本体及び自動化ラインの製造を開始します。従い、設備の信頼性が得られ、速やかに量産体制を計ることが出来、且つ、製品の品質の安定化を確保することが可能になります。

このように、新しい技術に挑戦することにより、顧客満足度が得られ、事業を維持継続することになります。お客様には、相変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

*「CASE」(ケース)とは、
Connectivity (コネクティビティ：接続性) , Autonomous (オートノマス：自動運転) ,
Shared (シェアード：共有サービス) , Electric (エレクトリック：電動化) の頭文字をとった造語。

2019年7月吉日(令和元年7月)

株式会社多賀製作所

代表取締役社長 浅川幸也